

v. d. 輸精管

w. v. d. 輸精管ノ壁

Fig. 1. *Pontodrilus matsushimensis*, Iiz. ノ腹面(自然大)

ノ二分ノ一)

Fig. 2. 同上前端ノ脊面(七倍大)

Fig. 3. 同上腹面少シク斜ニ見タルモノニシテ挾着機ト

生殖突起トヲ示ス(七倍大)

Fig. 4. 生殖機ノ位置ヲ示ス横式圖

Fig. 5. 左方ノ輸精管腺ヲ左側ヨリ見タル圖(截片ヨリ

組立タルモノ五十倍大)

Fig. 6. 輸精管腺ノ截断面ニシテ輸精管ノ輸精管腺ニ連

續セル部ヲ示ス(五百二十倍)



●寄生橈脚類れるなんすろばす

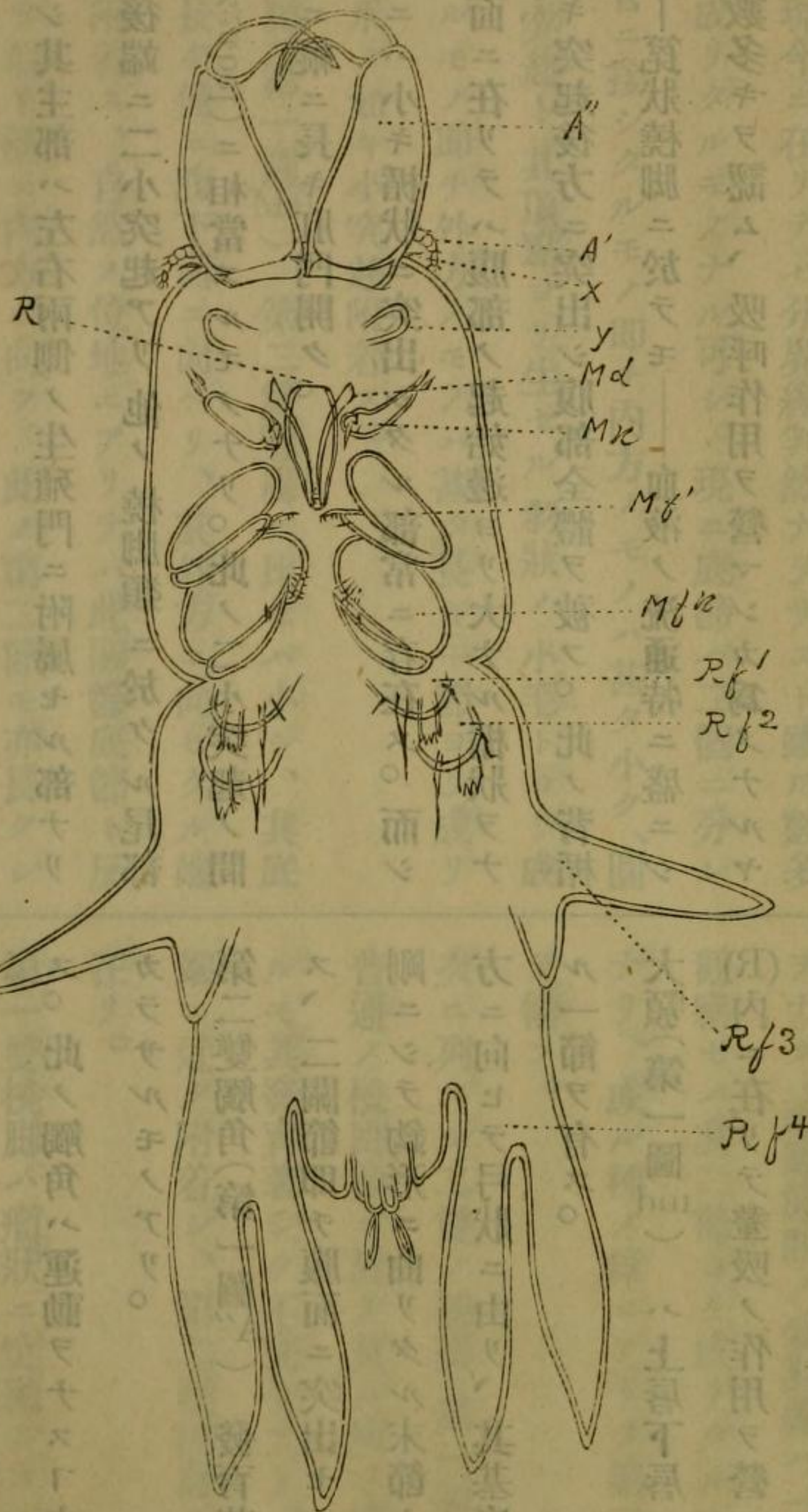
穴戸 一郎

先日來魚類ノ鰓ヲ搜索シタルニ寄生橈脚類ニ屬スルれる
なんすろばす(*Lernanthropus*)類ニ種許ヲ得タリ、今其記

事ヲ連載セントス。然レトモ各種ヲ記述スルニ先チ構造
ノ一般ヲ記シ此屬ノ如何ナルモノナルヤヲ示サン。
れるなんすろばすノ體形ハ長キ橢圓狀ニシテ多少囊狀ヲ
爲シ判然タル環節構造ヲ呈セサルモ横溝アリテ二三ノ部
位ニ之ヲ區分ス。最モ前方ニ位スル部ハ横ニ長ク、背面
ノ後縁ニハ多少ノ淺キ横溝アリテ體ノ後部ト境界ヲナ
ス、腹面ニハ稍後方ニ當リ明瞭ナラサル横溝ヲ存ス。此部
ニ細キ六七開節ヨリ成レル第一双觸角ト二節ノ鈎形ニ曲
リタル第二双觸角トアリ、又關節構造ヲ有セサル一雙ノ
小キ突起存ス。又此部ノ背面正中、第一双觸角起始ノ後方
ニ當リ規則正シク不平行四邊ヲナシ配列セル光輝アル點
四個ヲ認ムヘシ、此ハ四個ノ甚タ小キ感覺毛ノ基部ナリ。
此四點ノ中間ニ少シク不規則ナル形ヲナセル縦ニ長キ點
アリ、恐クハ體壁ヲ構成セル「キチン」質ノ厚クナリ成リ
タルモノナル可シ。其後方ニ當リテ體ヲ横斷セル淺溝ア
リ以テ第二部ト區隔ス。
次ニ來ル部ハ頭部ト第一胸環節ト癒合シタルモノニシテ

少シク長キ卵圓形ヲナシ背面ハ弧狀、腹面ハ扁平ナリ、而シテ背壁ハ楯ノ如キ形狀ニ側部ニ向ヒテ延ビ出シ下方ニ曲リテ弧形ヲ畫キ側面ヲ蔽ヒ、猶ホ進シテ腹面小許ヲ

第



尖起一雙(y)アリ其後方正中線上ニ上下兩唇ノ癒合シタル吸管其左右ニ接シテ起レル一雙ノ小キ劍狀ヲ成セル大顎アリ、又吸管ノ左右ニ當リテ觸角ノ如キ形狀ヲナセル小

蔽フニ至ル。此部ノ腹面ニハ口部ノ器官及ヒ第一第二兩双ノ撓脚ヲ附着ス。鉤形ニ變形セル第二雙觸角ノ後部ニ小キ圓形或瘤形ノ

モノナリ、其大サ頭胸部ヨリ稍大、其形ハ背面ヨリ見タル所稍卵圓形ニシテ背面ハ弧狀腹面ハ稍扁平ナリ。腹面ノ前端ニ接シ第二雙撓脚アリ其形チ第一雙ト異ナルナシ。

顎、其後方ニ二雙ノ顎脚ヲ見ル可シ、此部ノ後端ニ小キ第一雙撓脚アリ其直後ニ横溝アリテ背面ニ延長シ全ク軀體ヲ二分ス。以上記述シ來リタル部ヲ合シテ頭胸部ト爲ス

寄生撓脚類れるなんするばす(兵戸)

明治三十一年三月十五日

其後方ニ第三、第四稀ニハ第五雙橈脚アリ、皆甚タシク變形シ扁平ニシテ尖リタル筧ノ如キ形狀ヲナス、最後ノ橈脚以後ノ部ハ急ニ狭クナリ小キ突起ノ如キ景狀ヲ呈ス、此部ハ他ノ橈脚類ニ於ケル腹部ニ相當スル所ナルモ甚タ縮小シ其主部ハ左右兩側ノ生殖門ニ附屬セル部ナリトス。最後端ニ二小突起アリ他ノ橈脚類ニ於ケル尾部(Schwanzgabel)ニ相當スルモノナリ。此ノ二小突起ノ間腹面正中ニ縦ニ長キ肛門開ク。

胸部側面ニハ小キ楯狀ニ突出シタル部常ニ存在ス。而シテ雌ノ背面ニ在リテハ腹部ノ起始邊ヨリ大ナル楯狀ヲナセル薄スキ突起後方ニ突出シ腹部全體ヲ被フ。此ノ背楯内ニハ——筧狀橈脚ニ於テモ——血液ノ流通特ニ盛ニシテ血管ノ數多キヲ認ム、呼吸作用ヲ營マンカ爲メナルヤ疑フヘキナシ。

尾部ニ相當ス可キ小突起ハ長キ卵圓形ニシテ後方稍狭ク其端圓シ、背面ニ強剛ナル感覺毛生ス。魚類ノ鰓ニ寄生シ、體色ハ鰓ノ色ト同シク暗赤色ナリ。

コレヨリ各肢ノ構造ヲ詳記セン。第一雙觸角(第一圖A) 各種ニヨリテ其關節數ヲ異ニス、大略六七、或ハ八關節ヲ有シ、外面上面ニ數多ノ剛毛アリ、特ニ最後及ヒ其次位ナル關節ニ數多ノ感覺毛生ス。此ノ觸角ハ運動ヲナスコト少ク從テ其筋肉モ發達宜シカラサルモノアリ。

第二雙觸角(第一圖A) 發育甚タ宜シク大ナル鈎ヲ形成ス、二關節即チ腹面ニ突出セル圓錐形ノ大ナル基節ト強剛ニシテ鈎形ニ曲リタル末節トヨリ成ル。基節ハ多少外方ニ向ヒテ弓狀ニ由リ、其基底ニ環狀ノ短キ判然タラサル一節ヲ有ス。

大顎(第一圖B) ハ上唇下唇ニヨリテ取リ圍レタル吸管(R)内ニ在リテ整吸ノ作用ヲ營ムモノナリ。上下兩唇ハ體壁ヨリ突出セル扁平ナル皺襞ニシテ基底ハ幅廣キモ末稍ハ甚タ狭ク稍圓キ尖端ヲ以テ終ル。而シテ其ノ側緣ハ癒着シテ管狀ヲ爲スト雖トモ一部相合サル處アリテ孔穴ヲ存ス、此部ヲ通シテ兩側ノ大顎吸管内ニ進入ス。大顎ハ

劍狀ヲナシ其尖端ニ六ヨリ廿許ノ小齒配列ス。刺螯ノ用ヲ爲ス。

小顎(第一圖 M_X) 上顎ノ直後ニアリテ大略觸角様ノ形狀ヲ呈ス。現今ニ在リテハ分界線判然ナラサスト雖モ數多關節ヨリ成リタルモノナル可シ。現ニ底節ハ二個ニ分レタリ。吸管ニ接シタルモノ即チ内方ノモノハ甚タ小ク、圓錐狀ノ小突起ト其頂點ヨリ生セル羽狀ノ小毛トヨリ成ル。大ナルモノ即チ外方ノモノハ甚タ長キ一節ヨリ成リ其末端ニ爪ノ如キ小突起附着ス。

第一雙顎脚(第一圖 Mf^1) 第二雙顎脚ニ比セバ小シ、其底節ハ横ニ長ク僅ニ腹下面ニ向ヘリ、其外方ニ向ヒタル端ニ第二節附着ス、自然ノ位地ニアリテハ此關節底節ト反對ノ方向ヲ取り横ニ内方ニ向フ。此ノ第二節モ亦長クシテ屈スルヲ甚タ少シ、其内端ニ第二關節アリ、此ハ爪ノ如キ形ヲ成シ尖リタル銳キ末端ヲ以テ終ル、其凹縁ニ二列ノ小齒アリ。第二節ニハ猶一個ノ稍幅廣キ小爪附着ス。

第二雙顎脚(第一圖 Mf^2) 全脚中ノ最モ強硬ナルモノニシ

テ大ナル太キ腹面ニ向テ突出シタル底節ヲ有ス雄ニアリテハ此節ノ内側ニ小棘數多群生ス。第二第三關節ハ密ニ相癒着シテ一體トナリ著シク弧狀ヲナセル鈎形ノ強キ爪ヲナス。兩關節間ノ分界線ハ一見認ム可カラサルモ、細ニ觀察セハ其二節ヨリ成リタルモノタルヤ疑フ可カラサルナリ、或ル種ノ雄ニアリテ第二節ノ末端内側ニ小キ副鈎ヲ備フ。

次ニ列スルニ雙ノ橈脚(第一圖 Rf^1 Rf^2) ハ殆ト同形ヲナシ普通ノ橈脚類ニ於テ見ル所ノ橈脚ト同様ナル構造ヲ有スルモ其發育著シク不完全ナリ、第一雙橈脚ハ頭胸部ノ後端ニ近ク附着シ、第二雙橈脚ヨリ所謂遊離胸部ノ腹面ニ在リ。

第一雙橈脚ハ瘤狀ニ突出シタル體壁即チ底節ト其上ニ附着セル甚タ不完全ナル二枝トヨリ成ル。内肢ハ長キ圓錐狀ノ關節ト、時ニ甚タ長キ尖リタル鞭ノ如キ節トヨリ成リ、外肢ハ短キ、扁平ナル、截斷セラレタルカ如キ一節ヨリ成リ其幅廣キ遊離端ニ普通五個ノ短キ剛刺(不完全ナ

明治三十一年三月十五日

ル爪或ハ關節?)配列ス。各枝ノ兩縁ハ互ニ平行ナラス、内縁ハ内方ニ灣曲シテ其長ク短ク外縁ハ外方ニ灣出シテ長シ。又内枝ノ内側ニ當リ別ニ一個ノ小サキ剛毛様ノ突起アリ、外枝ノ外側ニモ同様ナル稍小キ毛アルヲ見ル。第二双橈脚ハ第一双橈脚ト同形同造構ヲ有シ扁平ナル基節、二節ヨリ成ル内枝、扁キ二節ト一二ノ爪狀剛刺ヲ有スル外枝トヨリ成ル、内枝ノ内側ニ存スル毛狀突起ハ第二双橈脚ニ於テハ認ム可カラス、外枝ノ外側ニ存スルモノハ第一双橈脚ニ於ケルモノヨリ稍大ナリ。以上記述シタル橈脚ノ造構ハ雌ニ於テ見ル所ナルモ雄ニ於テハ剛刺狀小爪ノ數等ニ小差アリ、今茲ニ之ヲ細記セス。

第三、第四兩双ノ橈脚ハ遊離胞部ノ腹面ニ附着シヨルモ其形狀甚ダ奇異ニシテ他ノ肢脚ニ比セハ其大サ甚ダ大ニシテ長ク^ハ筧ノ如シ、種類ニヨリ又雌雄ニヨリ異ナル所アルヲ以テ古人ハ其肢脚ナルヲ知ラサリシナリ。現今知ラレタル此屬ノ雄ニアリテハ此ノ長キ尖リタル扁キ橈脚ハ

二双アリテ多クハ各々二枝ニ分レタリ。雌ニアリテハ種類ニヨリテ異ナリタル形狀ヲナス、第一双ハ多ク分枝セス且小ナリ、第二雙ハ長ク且二枝ニ分ル。短小ニシテ分枝セサル第三雙即チ第五双橈脚ノ存スルモノアリ。以上記述シタル所ニヨリテれるなんすろぼす屬ノ特徴ヲ約言セハ左ノ如クナルヘシ。

第一胸環節ハ頭部ト癒着シテ頭胸部ヲ形成シ。他ノ胸環節ハ悉ク合一シテ一個ノ所謂遊離胸部(Freie Bruststück)ヲ成ス、其後端ハ雌ニ於テハ概ネ後方ニ延長シ幅廣キ扁平ナル背鞘(Rückenschilde)トナル。腹部ハ甚タ矮小ニシテ發育不完全ナリ。後端ニ小キ尾又附着ス。

第一雙觸角ハ六——八關節ヲ有ス、或ハ多小癒合シタルカ爲メ關節間ノ境界充分判然ナラサルヲアリ、小刺ヲ有ス。第二雙觸角ハ二關節ヨリ成ル、底節ハ甚大、腹面ニ突出シ、第二節ハ強剛ナル鈎形ヲナス攫握様ノ爪ナリ。上下兩唇ハ變シテ管狀ノ吸管ヲ形成シ、大顎ハ劍ノ如ク小顎ハ觸角ノ如ク其形ヲ變セリ。二雙ノ顎脚ハ張レタル底

節ト二節ヨリ成ル鈎爪トヨリナル、攫握ノ機官ナリ。二
 双ノ橈脚ハ發育不完全ニシテ一底節ト二小枝ヨリナル、
 外枝ハ幅廣ク小爪數多其端ニ生ス、内枝ハ細ク其端尖レ
 リ。猶ホ後部ニ二双或ハ三双ノ甚タシク變形シタル長キ
 扁平ナル橈脚アリ。

(第 頁へ續ク)

あさり介殼ノ斑紋ニ就キ

藤田 經 信

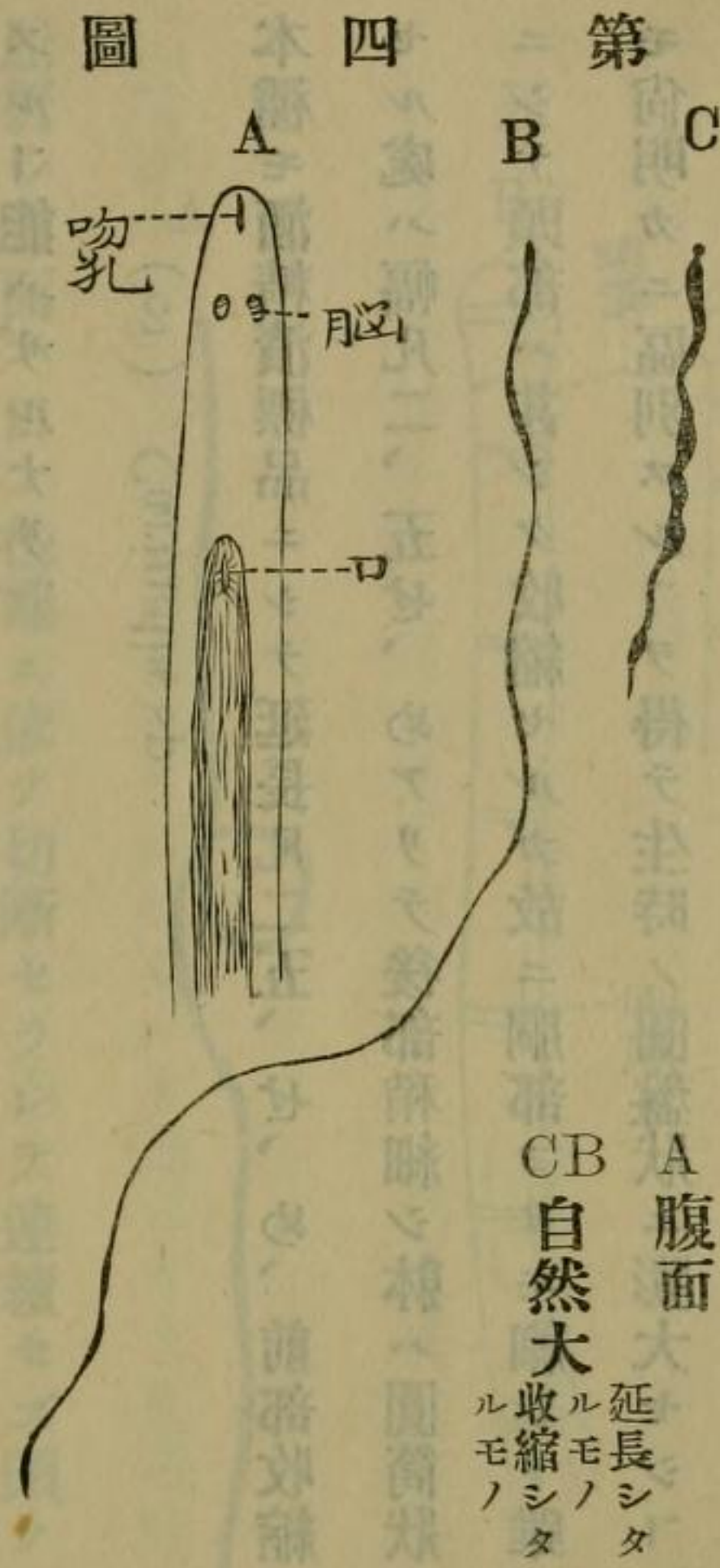
明治二十六及ビ二十七年ノ頃學友池田作次郎君ハあさり
 介殼ノ斑紋ニ就キ大ニ研究セラル、處アリテ終ニ「あさ
 リ介殼ノ表面ニ現ハル、斑紋ハ隨分雜朶ニシテ甚ダ複雑
 ナルガ如ク視ユレドモ其實際ハ甚ダ簡ニシテ且ツ單ニ其
 背突點ニ在ル星形白斑即チ双星形白斑ヨリ誘導形成セラ
 レタル者ナルガ如シ然リ而シテ斑紋形ナルモノハ余ノ所
 謂四例類(即チ斑紋形類、帶條類、白色類、波線類)中
 當ダニ數ニ於テ多キノミナラズ形態學上ヨリ視ルモあさ
 リ介ノ眞例形トシテ不可ナキガ如シ……再言スレバ斑

あさり介殼ノ斑紋ニ就キ(藤田)

紋形類ハ即チ The original form of species 保存シタルモ

ノニシテ他ノ三例類ハ皆之ヨリ轉化シタル形狀ナラント
 信ゼラル、ナリ」(以上原文ノ儘動物學雜誌第六十四號)
 ナリト斷案ヲ下サレタリ然レドモ一度ハ池田君ノ食餌ニ
 上リ而シテ後更ニ復研究材料ト化セシ介殼ハ是皆多分ハ
 生長シタルモノニシテ余ノ推察スル所ニヨレバ君ハ單ニ
 各個變彩異紋ノモノヲ對照シテ斯ノ如ク推論ヲ下サレタ
 ルモノナラン故ニ再ビ一步進ミテ星形白斑ノ根元ハ如何
 トノ問題ヲ提出スルハ強チ無理ナル注文ニモアラサルベ
 シ
 去年初夏ノ頃品川沖へ度々所要アリテ小舟ヲ操リ赴キケ
 ルガ一日大千潮ニ際シ舟夫航路ヲ誤リタルガタメ船底ハ
 堅ク沙ニ膠シニ進モ三進モ行カナクナリ暫時立往生ノ姿
 トナリタリ其時余無聊ナル儘ニ舷ヨリ手ヲ海中ニ入レ沙
 ヲ握ミ之ヲ檢スルニあさりノ稚介頗ル夥シク再三再四試
 ムルニ數百以上トナリ何心モナク之ヲ陳列シタルニ其斑
 紋ニ種々アリ其簡複ニ從ヒ分數シタレハ此等ノ間ニハ整

ニシテ後部漸ク細ク前部稍太シ頭端鈍尖ニシテ胴部ト區別ナシ收縮スルキハ體ノ諸部殊ニ膨レ恰モ鼠糞ヲ連子タル如ク見ユ體面樺色ニシテ頭部稍淡ク頭端ニ至テ再ビ濃



色トナル然レモ決シテ特別ナル斑點等ヲ現ハスナシ口ノ部分ヨリ後口ハ體ノ中央暗緑ニ變ズ之レ消食管中ニ食物ヲ含蓄スルガ爲メニシテ其兩側ハ一般ノ樺色ヲ呈ス頭溝頭感器及ビ眼ヲ有セズ口ハ腹面ニアリ腦ヨリ甚シク隔タリ頭端ト腦トノ距離ノ凡ソ三倍アリテ皺襞アル裂孔トシテ見ヘ吻孔ハ頭端ノ稍腹面ニ開ク

本種ハ城ヶ島其他近傍ニ稍多ク兩潮彌間ノうみとらのを等ニ附着ス (第 頁へ續ク)

●寄生橈脚類れるなるばす

(第八二頁ノ續キ)

穴戸 一郎

ぼらのれるなるばす

雌

體ハ細長ク、觸角ヲ有スル部ハ前方ニ突出シ、兩側ノ窪ミト背面ノ淺キ横線トニヨリテ他ノ頭胸部ト判然區別セラル、其長サ幅ノ殆ト半アリ、前縁圓ク少シク腹面ニ屈レリ、第一双觸角ハ其端即チ腹面ヨリ發ス、頭胸部ハ稍方形ヲナシ前方ヨリ後方ニ至ルニ從ヒ其幅ヲ増シ、後端圓シ或ハ中央部特ニ突出シテ稍六角形ヲ爲スナリ、左右兩側ハ下面ニ屈リ又内方ニ曲リ腹面ヲ蔽フ、前方第二双觸角ノ直後ニ於テ最モ深ク後方ニ至ルニ從ヒ淺シ故ニ腹面ヨリ檢セバ三角ノ如キ形ヲ呈ス、游離胸部ハ中央ニ

絞レタル所アリテ前後ノ二部ヲ區別シ得ヘシ、前部ハ長サ幅ヨリ長ク前端ヨリ二分一位ノ所亦多少淺ク絞レタリ、此ノ最モ前方ナル部ノ腹面ニ第二双橈脚アリ、次ナル部ニ長キ瘤狀ノ第三双橈脚附着シ、短クシテ幅廣キ後部ノ腹面ニ第四双橈脚在リ、其背面後端ヨリ左右一對ノ扁キ突起後方ニ向ヒ突出ス、其長サハ幅ヨリ少シク長ク後端ハ圓シ、左右共多少内方ニ屈曲セリ。此ノ突起ハ他ノ種ニ於ケル背鞘ニ相當スルモノナルヘキモ此種ニ於テハ其發育完全ナラサルカ爲メ此ノ如キ形狀ヲ呈スルモノナルヘシト信ス。此ノ兩突起ノ中間ニ圓錐狀ノ比較的長キ腹部アリ、其基部太ク、左右ニ生殖器ノ瘤狀突起アリ後端少シク圓形ニシテ中央ニ肛門開ク、其左右ニ卵圓狀ノ尖リタル尾突起アリ。

腹面前端ニ第一双觸角アリ各七關節ヨリ成ル、基節ハ甚タ大ク、最後ノ一節ハ甚タ小ク長キ第六關節ノ一突起ナルカ如キ觀ヲ呈ス、三個ノ太キ剛毛其末端ニ、數個ノ細小ナル毛其外縁ニ生ス、他ノ關節モ各其末端ニ一二ノ毛

ヲ有ス。第一双觸角ノ基部外側ニ圓錐狀ノ小突起前方ニ向ヒ突出ス、其長サ短シ。

第二双觸角ハ普通ノ形狀ヲナス、太キ基節ト強キ鉤ノ如キ第二節トヨリ成ル、基部ノ内側ニ小キ突起一個在リ。

第二双觸角ノ後部ニ瘤狀ノ小キ突起一雙アリ。

吸管ハ頭胸部ノ殆ト中央ニ位シ。大顎ハ甚タ細ク其末端内側ニ八個許ノ小齒ヲ有ス。小顎ハ吸管ノ左右殆ト其中央位ノ所ニアリテ二枝ニ分ル、内枝ハ末端ニ一個外枝ハ大小三個ノ剛棘ヲ有ス。

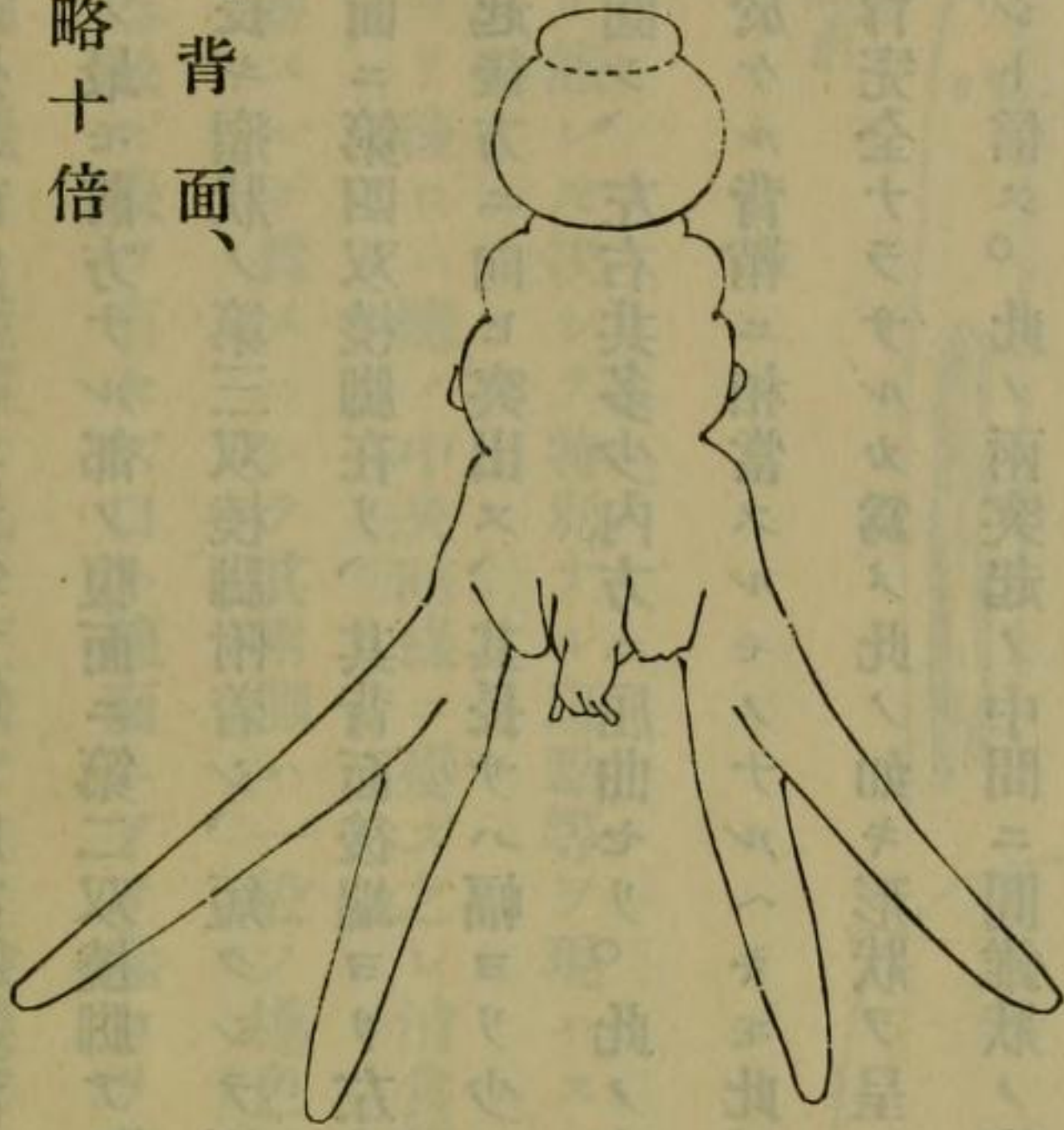
第一双顎脚ハ二關節ヨリ成ル、第二節ノ末端ニ馬蹄狀ニ配列セル小棘存シ、其基部ニ二個ノ圓形群ヲ形成セル數多ノ微小ナル棘アリ。第二双顎脚ハ其基節内縁ニ瘤狀ノ小突起ヲ有シ其游離端及基節ノ内縁ニ微刺群生ス。第二節ノ内側ニ爪狀ノ棘アリ。

第一双橈脚ハ大略普通ノ構造ヲ有ス、即チ大ナル基節ノ端ニ内外ノ二枝附着シ、外枝ハ大ニテ其端稍平ク五個ノ小爪アリ、内枝ハ倒卵形ニテ頂ニ極テ微細ナル顆粒狀ノ

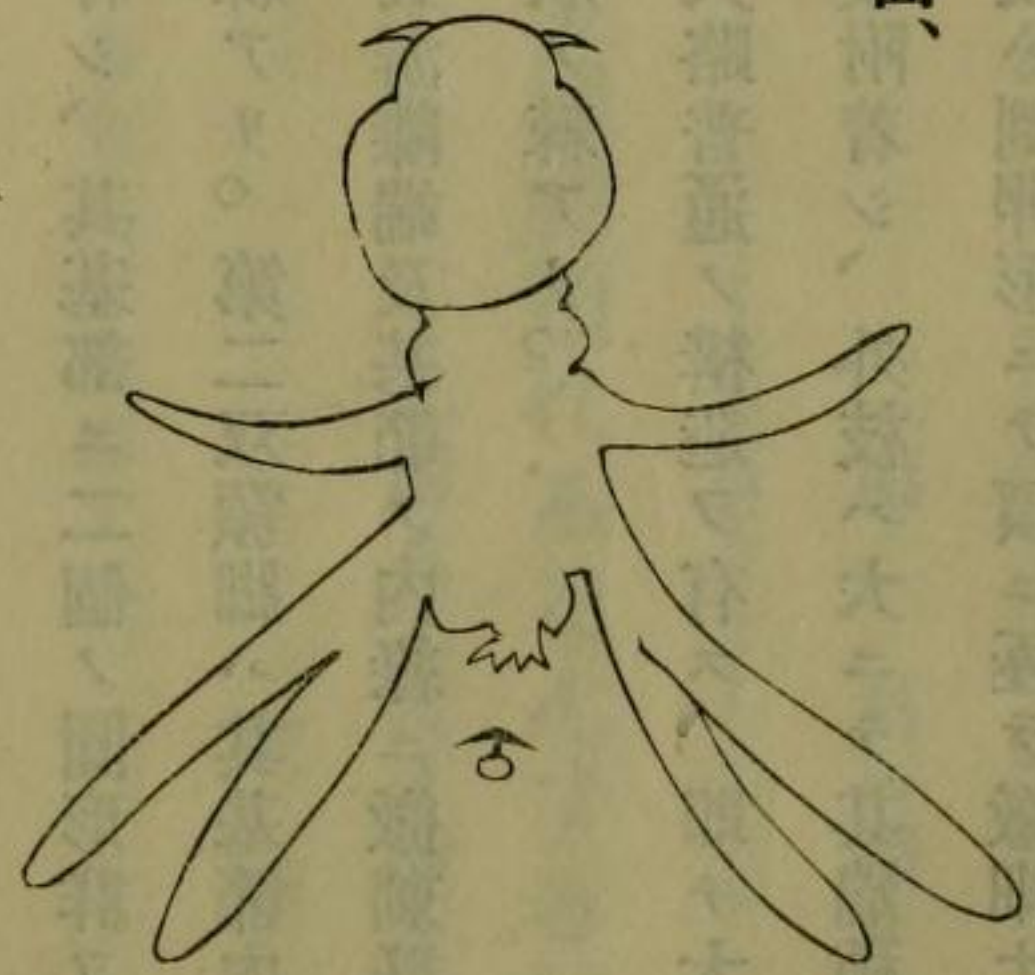
寄生橈脚類れるなるんぼす(六戸)

棘數多アリ他種ニ於テ普通ナル細毛ヲ見ス、外枝ノ外側ニ長キ毛一本、内枝ノ内側ニ短キ刺一個アリ。第二双橈脚ハ其基節甚タ高ク外枝ノ末端ニハ大小數個ノ剛棘アリ、内枝ハ第一双橈脚ニ於ケルカ如ク其末端ニ長キ毛ヲ有セサルモ小キ剛棘數多群生ス、外枝ノ外側ニ小毛アリ。

雌、背面、
大略十倍



雄、背面、
十倍



雄、腹面



第三双橈脚ハ甚タシク扁平ナラサル短キ末端ノ圓ク尖リタル左右一雙ノ突起ニシテ游離胸部ノ殆ト中央腹面ニアリ、後方稍外方ニ向フ、他ノ種ニ比セハ甚タ短シ、背面ヨリハ殆ト見ルヘカラス。

第四双橈脚ハ普通ノ形狀ヲ呈シ、甚タ長ク、體ノ後方ニ突出シ、各二枝ニ分ル。

尾突起ハ長キ卵圓形ニシテ末端ニ短キ剛刺二個アリ、内縁外縁ニ各一本ノ毛アリ、外縁ニハ猶一本ノ甚タ短小ナルモノアリ(?)

體長五、〇みめ。頭端ヨリ橈脚ノ末端マテ八、五みめ。

雄

雌ニ於テハ游離胸部ノ幅最モ廣キ所ハ頭胸部ヨリ廣シト雖モ雄ニ於テハ此ノ如キ所アルヲナク頭胸部ノ方反テ幅廣シ、又腹部ト游離胸部トノ差モ雌ニ於ケルカ如ク甚シカラス、故ニ頭胸部ハ一見其甚タ大ナルヲ認ムヘシ。

頭胸部ハ大略雌ニ於ケルト異ナル所ナシト雖モ縦軸雌ニ於ケルヨリ比較的短ク全體稍圓形ナリ。

游離胸部ハ其中央即チ第三双橈脚ノ後部ニ於テ雌ニ於ケルカ如キ著シキ絞レヲ缺ク、然レモ其前方ニ二個ノ判然タル絞レアリ。又後端背面ニ於ケル背鞘ニ相當スヘキ突起ハ全ク存在セス、漸次幅廣キ腹部ニ移リ其境界判然ナラス、腹部ノ生殖門開孔部以後ハ急ニ細ク圓柱狀ヲナシ其端左右ニ尾突起各一個アリ。

觸角口部ノ諸肢第一、第二双橈脚等大畧雌ニ於ケルト異ナル所ナシ、只其大且強ナルノミ、特ニ第二双觸角第二双顎脚ニ於テ著シトス。

第三双橈脚ハ雌ニ於ケルカ如クナルモ甚タ長クシテ體ノ左右横ニ突出ン前方ニ向ヒ弓形ニ曲レリ、基部ヨリ漸々細ク末端尖レリ。

第四双橈脚ハ雌ニ於ケルカ如ク二枝ニ分ル。

體長三、七みめ。頭端ヨリ橈脚ノ末端マテ五、五みめ、以上ハあるこゝる漬標本ニヨリテ記述ス。卵囊ヲ有スル雌ナキヲ以テ其形狀ヲ詳ニセス。

現今世ニ知ラレタルれるなんするばす屬ノ種ハ先日來予

Zoologischer Jahrbucher 其他ニ就キ取調へタル所ニテ
ハ左ノ如シ

種名	宿主及産地	寄生場所
Lernanthropus		
1. paradoxus, (Nordm.)	Mugil sp.	鰓
2. lavratus, Heller.	Priacanthus ocellatus. 印度洋	全
3. lativentris, Heller.	Mesoprion phaiotaeniatus. 巴タ	全
4. musca, d. Blainv.	Diodon sp. マニラ	皮膚
5. Lemminckii, Nordm.	Saurus lacerta.	鰓
6. Petersii, v. Bened.	Serranus Goliath. モザンビク	
7. giganteus, Koller.	Caranx Carangus. フラミン	
8. pupa, Burm.	Platax sp. Ephippus gigas. シラ	全
9. atrox, Heller.	Pagrus. guttulatus. ニーホー ラニム	全
10. pagodus, Koller.	Eques balteatus. シモ	全
11. gisleri, v. Bened.	Sciaena aquila Umbrina airrosa ; ト Corvina nigra. ト	全
12. trigonocephalus, Nordm.	Serranus Scriba 地中海 リースト	全

13. Scribae, Kroyer.	Serranus Scriba.	
14. angulatus, Kroyer	Serranus sp. 西印度	
15. Pagelli, Kroyer.	Pagellus sp.	
16. Belones, koller	Belone Almeida. フラミン	
17. Kroyeri, v. Bened.	Labrax lupus Sargus Salviani. 北 トリニスタ スト	鰓
18. Königii, Steenst. & Lütken.	Stromatei parv Galaeichteyis meyoris.	全
19. nobilis, Heller.	Tennodon saltatorius. フラミン	全
20. Holmbergii, Nordm.	? ホノルル	全
21. Polynemi, Rich.	Polynemus tetradactylus.	全
22. trifoliatus, Basset-Smith.	Polynemus tetractylus. フラミン	全
23. Micropterygis, Rich.	Myropterygis dummeli.	
24. Tylosurxa, Rich.	Tylosurus imperialis.	
25. ?	? ?	
26. ?	? ?	

明治三十一年四月十五日

第廿三、廿四ノ兩種ハ Prof. S. Richardi 氏カ Acti. Soc.
Tosc. Sc. N. Pisa. Proc. Verb. vol. 4. p. 82-84. ニ於テ
記述セシ所第廿五以下ハ Rathbun 氏カ Proc. U. S. Nat.
Mus. vol. 10. 1887. p. 559. ニ於テ記述セシ所ナルモ

共ニ原文ヲ得ルヲ能ハサレハ如何ナル形狀ヲナセルモノナル知ル可カラス、特ニらとぼん氏ノ文ノ如キハ其表題ヲ搜索シ得タルノミナレハ其種名モ又幾種ヲ記載シタルモノナルヤモ知ル能ハサルナリ。猶此他ニ此屬ノモノヲ記シタルモノアリヤ否、予ノ搜索未タ充分ナラサル可シト信スレハ諸賢ノ教示セラレンコヲ希フナリ。

他ノ廿二種ニ就テハ原記述者ノ記事或ハ其要點ヲ記シタル者等ヲ幸ニ一讀スルコヲ得タレハ其實物ハ一モ見タルコナシト雖トモ大畧其形狀ヲ知ルヲ得タリ、而シテ第二ヨリ第廿二ニ至ル種ハ悉ク大ナル背鞘ヲ具アルモノナレハ前ニ記シタルぼらニ寄生スルモノ、如ク不完全ナル背鞘ヲ有スルモノトハ異種タルヘキ明ナリ、第一種ハ千八百三十二年ふをん、のるどまん氏カ其著 Mikrographische

Beitrage zur Naturgeschichte der wirbellosen Thiere.

Zweite Heft. p. 45 於テ Epachthes paradoxus ナル名

ヲ以テばら類ニ寄生スル新屬新種トシテ記述セシモノニシテ全ク背鞘ヲ存セス。此ノ背鞘ノ存否ハ動物ノ外形ニ

寄生橈脚類れるなんするばす(宍戸)

著シキ差異ヲ呈スヘシト雖トモ脚肢ノ形狀等ニ於テハ大差ナキヲ以テ只ニ背鞘ノ有無ノミヲ以テ一新屬ヲ立ツルノ價值ハ無キモノトナシ、千八百三十三年ぶるまいすて氏ハ之ヲれるなんするばす屬ニ編入セリ、諸學士皆此說ニ同意シ、原命名者自身モ千八百六十四年ノ著ニ於テハれるなんするばす屬中ニ其名ヲ掲ケタリ。他ニ最モ著シキ此種ノ特徴ハ第三双橈脚ノ基底マテ分離シ、一見シタル所四個ノ扁平ナル篋狀突起遊離胸部ノ腹面ニ併列シ居ルカ如キ觀ヲ呈スルニアリ。今予ノ茲ニ記シタル種ニ於テハ遊離胸部ノ後端背面ニ左右二個ノ扁平ナル小突起アリテ背鞘ヲ欲キタルモノト完全ナル背鞘ヲ有スルモノトノ中間ニ位スルカ如キ觀ヲ呈シ、脚肢ノ構造ニ於テモ亦異ナル所存スレハ、此ノ本邦ノぼらニ寄生セル種ヲ新シキモノトナシ

Lernanthropus Mugilli.

ノ學名ヲ附シ、猶和名トシテハ甚タ呼ヒ惡キ様ナレトモぼらのれるなんするばすと稱ヒテ便利ニ且記臆シ易スキ

綠色ノ輪(一本ノ棘ニ三四)ヲ生スルコナリ Secondary 棘ハ綠色ニテ處々特別ニ濃厚ノ線アリ

產地——大島(琉球)濠洲、東印度

(第 頁へ續ク)

●寄生橈脚類れるなんするばす

(第一二六頁ノ續キ)

宍 戸 一 郎

ぶりのれるなんするばす

雌 (第一圖ヨリ第六圖ニ至ル)

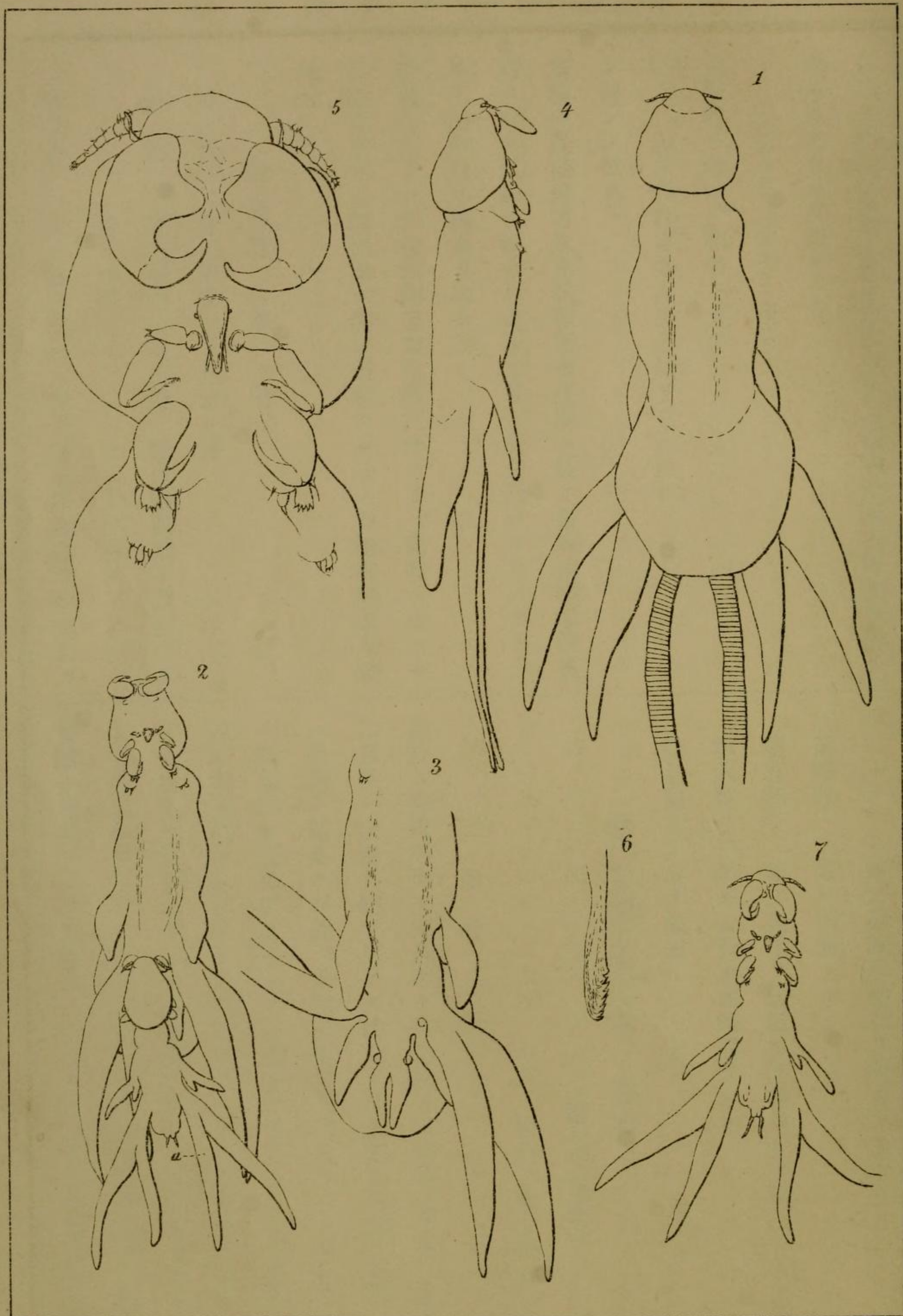
體ハ細長ク中部ハ太ク稍圓柱狀ナリ、頭胸部ハ背面凸、腹面稍扁平ナリ。背部ヨリ見タル所大略卵形ニシテ前方狭ク後方廣シ。觸角ヲ有スル部ハ極テ淺キ横溝アリテ他ノ部ヨリ區別セラレ特ニ幅狭ク前方ニ突出ス。第一双觸角ハ其前角ヨリ生シ、第二双觸角ハ體ノ長軸ト殆ト直角ヲナシ腹面ニアリ、其直後ニ左右一對ノ耳形ヲナセル小突起アリ。頭胸部ノ背甲ハ前部ヨリ後方ニ至ルニ從ヒ高ク中央部ヨリ稍後方最モ高シ。兩側ハ下方ニ曲リ三角狀

ニシテ下端狭シ殆ト腹面ヲ被ハス。遊離胸部ハ圓柱狀ニシテ長ク頭胸部ノ三倍餘アリ第二双第三双橈部ノ後部ニ各絞レアリ。後端背面ヨリ食七形ヲナシ脹レタル背鞘後方ニ突出ス其後縁ハ灣形或ハ殆ト直線ニシテ切斷シタルカ如シ。

第一双觸角ハ七關節ヨリ成リ、基節最モ大ク他ノ五節ハ殆ト同大、最後ノ一節ハ甚タ小ク其關節分界モ判然ナラスシテ第六節ノ小突起ナルカ如キ觀ヲ呈ス。數個ノ小毛最後二節ノ末端ヨリ生ス、他ノ關節ニハ其末端ニ各一ニ個ノ小毛ヲ有ス。

第一双觸角ノ基部外側ニ絲狀ノ突起アリ、其長サ第一双觸角ノ殆ト半アリ、第二双觸角ハ大ク、鈎形ヲ爲シ腹面ニ突出ス、第二節ヲ形成セル鈎ハ銳ク尖リテ末端黒褐色ナリ。基節ノ基部後方ニ耳形ヲナセル小突起存ス。

吸管ハ頭胸部ノ腹面殆ト中央——少シク後縁ニ近ク——ニアリテ其兩側ニ存スル大顎ハ七個ノ鋸齒ヲ有ス、基部



明治三十一年五月十五日

甚タ稀ニシテ雌ハ既ニ數十個ヲ得タルモ雄ハ僅ニ頭端ノ少シク破損シタルモノ一個ト全完ナルモノ一個ヲ得タルノミ。雌ニ比セハ甚タ小ク且細シ。頭端ヨリ尾端マテ三、三ミメ、第四双橈脚後端マテ五、〇ミメ。

頭胸部ハ長キ卵圓形ニシテ前方甚ダ狭ク後方ニ至ルニ從ヒ其幅ヲ増ス。遊離胸部ハ第二双橈脚ノ後部ニ於テ稍深キ絞レヲ存シ背面ニモ横溝アリテ其節關分界線タリシヲ認メ得ヘシ。背鞘ハ全ク之ヲ缺ク。腹部ハ幅廣ク、胸部トノ境界判然ナラズ。後端ニ細長キ尾又二個存ス。

觸角、口部ノ器官、第一双第二双橈脚等ハ雌ニ於ケルト大差ナシ。然レトモ其形チ甚タ大ニシテ體ノ兩側ニ突出シ背面ヨリモ其一部ヲ認メ得ヘシ、第三双橈脚ハ二枝ニ分レ後方外方ニ突出ス、外枝ハ長ク内枝ハ短シ、共ニ其幅廣カラス。

第四双橈脚モ亦二枝ニ分レ兩枝共甚タ長シ、内枝ハ少シク外枝ヨリ短シ。内枝ハ殆ト眞直ニ後方ニ走り、外枝ハ

外方後方ニ向フ。第五双橈脚ヲ存セス。

予ノ得タル完全ナル標本ハ雌ノ腹面腹部ノ基部第四双脚脚ノ間ニ於テ其外皮ニ第二双觸角ノ鈎ヲ以テ強ク附着シ居レリ。(第二圖)

Van Beneden 氏ノ原記述ヲ見ルヲ能ハサルモ Heider 氏ノ記ス所ニヨレハいしもちノ類 (*Sciæna aquila*, *Umbrina cirrosa*, *Corvina nigra* 等ノ鰓ニ於テ發見セラレタル *Lernæanthropus gislei*, v. Beneden) 以上記シ來リタル種ニ類似ス。然レトモ第三双橈脚ハ前方ニ向ヒ弧狀ヲ爲シ側方ニ突出シタル鋤ノ如キ形狀ヲ爲シ其後面ハ中央窪クシテ恰モ弧狀ノ筧ノ如シト記シアレハ本種ノ扁キ披針狀ヲナセルモノトハ大ニ異レリ。記載ハナケレモ圖ニヨリテ比較スルニ背鞘ハ本種ニ於ケルヨリ幅狭キカ如ク。第四双橈脚モ本種ヨリ狭クシテ長シ。背甲ハ屈折シテ明ニ頭胸部ノ腹面ヲ被ヒ。大サモ雌全長五ミメトアレハ本種ヨリ小ナリ。依テ本種モ未タ命名セラレタルヲナキモノト信

シ、*Seriola gingueneradiata*, T. & S. ノ鰓ニ寄生シ居リ
タルモノナルヲ以テ

Lernanthropus Seriohi

ノ學名ヲ命シ、和名トシテ

ト稱ント欲ス。

本種ハ農商務省水産試験所殖産所ニ於テ當時産卵期調査

用トシテ試験ニ供サレタルぶりニ於テ得タルモノナリ、

茲ニ同所員ノ高意ヲ謝ス。

産地ハ主トシテ相模灣及東京灣近傍ナリ。記載ハ主トシ

テほるまりん漬標本ニ據ル新鮮ナルモノ及酒精標本モ兼

用セリ。

第五版 圖 解

第一圖 雌 背面ヨリ見タル所

第二圖 雄ノ附着シタル雌 雌は腹面雄ハ背面ヨリ

見タル所

第三圖 雌ノ後半腹面 右ノ第五双橈脚ヲ示サンカ

爲メ第四双橈脚ヲ前方へ上ケタリ

第四圖 雌ノ側面

第五圖 雌ノ前半ヲ腹面ヨリ甚タシク廓大シテ示ス

第六圖 雌ノ大顎末端錐齒ヲ示ス

第七圖 雄ノ腹面

● 昆蟲學研究者ノ參考ニマテ

(第七二頁續キ)

岩川 友太郎

(三) 蟲 針

蟲針ニ英吉利形ト獨逸形トノ二種アリ甲ハ短ク乙ハ長シ

二者各、便否ノ點ヲ異ニス然レトモ乙種ハ甲種ニ比スレ

ハ便利ノ點多キガ故ニ世間ニ多ク賞用セラレ、ガ如シ乃

テ獨逸形ニ三種アリ (一) Kläger Pins, made by Hermann

Kläger, Berlin, Germany (二) Karlsbad Pins, made by one or se

veral firms in Karlsbad, Bohemia, Austria (三) Vienna Pins,

made by Miller; Vienna Austria 以上二種ニ通シ唯、一點ノ

瑕瑾ハ綠青ヲ生シテ標本ヲ汚染スルニアリ此缺點ヲ補ハ

セラル物質ノミ一方ニ殘留シ所謂形體質トナリタル階級ニ變シタルモノナリト。

(第 頁へ續ク)

●寄生橈脚類れるなんすろばす

(第一五一頁ノ續キ)

宍 戸 一 郎

本編既ニ三回引續キ掲載シ、校正モ筆者自ラ爲シタルモノナリシカ、常ニ追ヒ立テラレテ筆ヲ取り、イヤ／＼ナカラ校正シタルモノ故、誤植多ク意外ノ誤ヲ生シ、實ニ申譯無キ次第ナリ。「突出シ」ヲ「突出ン」(第一二三頁下段十一行)トナシ、「配列セル小齒」ヲ「配列セリ小齒」(第一四九頁上段十、十一行)トナシタル如キ誤謬ハ、讀者ノ推讀ヲ乞ヒテ一々之ヲ列記セサルヘキモ、大ナルモノ一二ヲ茲ニ正シ置カン。

第八二頁ニ於テ初メテ本編ヲ掲ケタル時、題號以下三回程れるなんすろばすトアリ、皆ばすノ誤ナリ。らてん名

寄生橈脚類れるなんすろばす(宍戸)

ハ一般ニ大陸讀ミニ成ス方一定シテ宜シトノ説アレト、茲ニハ英語讀ミニ成セリ、孰レニ讀ミテモばすトハ讀メス、誤植ナリ。第一二二頁下段十行「末端ニ」トアルハ「末端ナル爪ニ」ノ誤リナリ、第一四九頁上段九行ノモ同シク「末端ナル爪ニ」ト成スヘキナリ。又自身ニモ喫驚セル誤ハ第一二二頁下段左圖ノ左肩ニ「雄、腹面」ト記入シアルコナリ、此ハ「雌、腹面」ナリ。猶他ニモアル様ナレトモ貴重ナル紙面ヲ餘リ多ク費スコ故止ム可シ。

第一二四頁下段種名ノ第廿五、廿六ハ？印ヲ附シ、原文ヲ得ルコ能ハサル旨ヲ附記シ置キタリシカ、其後ニ至リらとばん氏ノ論文ヲ發見シ借覽スルヲ得タルニ、其記述セル所

Lernanthropus Brevortiae, Rathbun
L. — Pomatomi, Rathbun.
} Brevortia
} tyrannus.
} Pomatomi
} ssaltator

ノ二種ナリシ皆特異ナル形狀ヲ呈シ、予ハ未タ見タルコナキモノナリ。

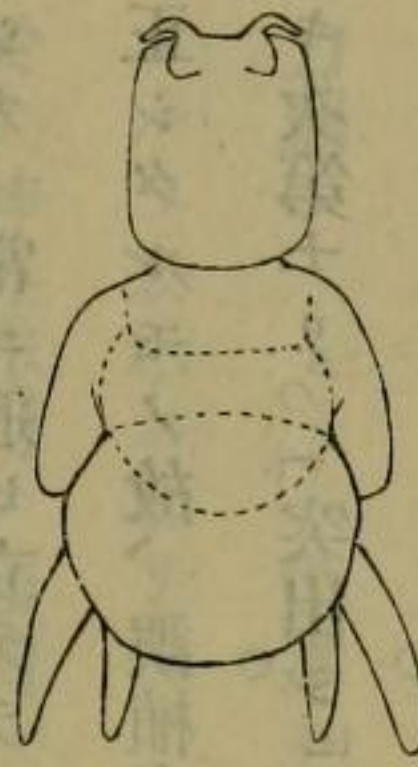
サテ、茲ニ記述セント欲スル種ハ

たいのれるなんすろばす

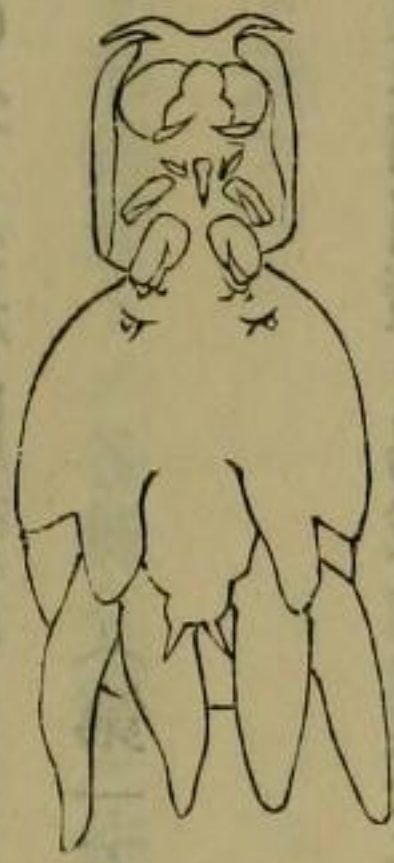
ナリ、此種モ亦水産試験所員ノ高意ニヨリ、同所ニ於テ得タルモノナリ。本種ハ始メくろだいニ於テ發見シタリシカ、其後まだいニモ寄生スルモノアルヲ見タリ。

雌 甲、乙、丙圖

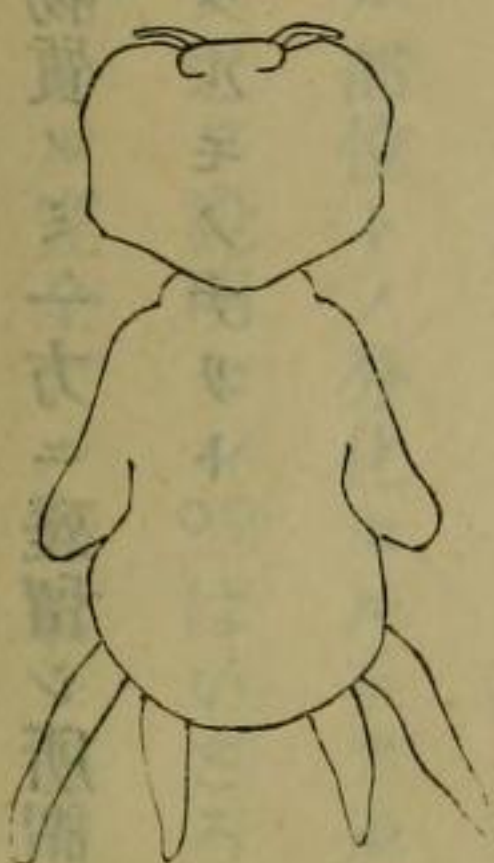
甲。雌。背面、生キタル標本ヨリ。殆ト十倍



乙。雌。腹面、甲ニ同シ



丙。雌。背面、酒精標本ヨリ。殆ト十倍



體長四、五みめ、頭端ヨリ第三橈脚端マテ五、二五みめ。卵囊ハ比較的長ク十みめアルモノアリ。

頭胸部ハ方形ニシテ其四隅圓ク後縁弧狀、兩側稍眞直ナリ、前端ノ左右隅ハ角狀ニ突出シテ其間ニ觸角ヲ支フル部ヲ狭ミ前縁殆ト直線ヲ爲

ス。兩側ハ下方ニ曲リテ全側面ヲ被ヒ下縁殆ト内方ニ屈折セス、腹面ヨリハ其厚キ脹レタル縁ヲ見ル。酒精標本ニテハ此體側ヲ被ヒタル部左右外方ニ開展シ、脊面ヨリハ大ニ頭胸部ノ幅ヲ増シ生時ト其狀ヲ異ニスルコト多シ。腹面ニテ第二雙觸角ニ對スル部ハ側甲ノ厚壁深ク堀レ、第二雙觸角ノ入ルヘキ溝ヲ形成シ、透光ヲ以テ腹面ヨリ檢セハ厚キ部ハ稍不透明ナルモ壁薄キ溝ノ部ノミ透明ニ見ユルヲ以テ切レ目アルカ如キ觀ヲ呈ス。觸角ヲ附着セル部ハ其側部ニ於テハ稍深キ溝ヲ以テ頭胸ノ前角ト分界セラル、此溝ハ後部少シク内方ニ曲リ、多少後縁ヲ區隔スルモ、背面中央部ニ於テハ殆ト之ヲ認メ難シ。第一雙觸角ハ此部ノ前外角ヨリ出ツ。遊離胸部ハ其殆ト中央左右兩側ニ深キ緊束アリテ前後ノ二部ニ之ヲ分ツ。此所ノ背面ニモ微ニ横溝ノ存スルヲ認ム可シ。前部ハ縦ニ三部ヲ區別スヘシ、中央部ハ甚シク孤狀ヲナシ厚ク、側部ハ左右共稍平クシテ薄シ後方第三雙橈脚ノ外縁ニ續ク。中央部ハ又淺キ横溝ヲ以テ前後ノ

二節ニ分ル前節ハ第二胸環節ヲ代表スルモノニシテ其腹

面ニ第二雙撓脚アリ、後節即チ第三胸環節ノ側部ヨリ第

三雙撓脚發ス。緊束部以後ハ其形チ大略圓ク前部闕損シ

此所ニ於テ前半ト連續ス、或ル標本特ニ保存シタルモノ

ニアリテハ側縁後方ニ角アリテ稍圓キ六角形ヲ成スヲア

リ。背面ヨリ驗セハ此部ニモ亦二部ヲ區別スヘシ——特

ニ保存シタル標本ニ於テ判明ナリ——前部ハ小キ半圓形

ニシテ第四胸環節ヲ代表スルモノナルヘク、不透明ニシ

テ厚シ、後部ハ背楯ニシテ稍半月形ヲナシ透明ナリ。第

四雙撓脚ハ第四胸環節腹面ヨリ發ス。其中間ニ短キ腹部、

細長キ尾部在リ。尾又ハ比較的長ク只大ニシテ德利形ヲ

爲シ羽狀ノ小毛三四ヲ存ス、其後端背楯ノ後縁以後ニ出

スルヲナシ。

卵囊ハ細ク只甚タ長シ、最モ長キモノニテハ體長ノ殆ト

二倍アリ——頭端ヨリ脚端マテ五、二五みめノ體ヲ有ス

ルモノニテ卵囊一〇、〇みめヲ有スルモノヲ見タリ。第

ス其後端中央ニ稍三角形ヲナセル刻目アリテ内外ノ二枝

ニ分ル、外枝ハ甚タ短ク稍外方ニ向ヒ、内枝ハ少シク長

ク後方ニ向フ。

第四雙撓脚ハ各二枝ヨリ成リ、皆甚タ長ク其全長三分二

或ハ其以上後方體外ニ露出ス。其形チ長キ披針狀ニシテ

中央幅廣ク兩端特ニ後端尖レリ。外枝ハ後方外方ニ向ヒ

内枝ハ左右殆ト並行シ眞直ニ後方ニ向フ。

第一雙觸角ハ不明瞭ナル六ノ環節ヨリ成リ、基節最モ太

ク漸次細ク末端尖レリ、尖端ニ九本ノ小毛アリ又外縁

ニ四本内縁ニ一本ノ小毛ヲ存ス。

第二雙觸角ハ他種ニ於ケルカ如ク鈎形ニシテ末端銳ク尖

リ、體ト殆ト直角ヲ爲シ背甲ノ側部ニ存スル溝ニ沿テ腹

面ニ突出ス。吸管ハ頭胞部ノ腹面殆ト中央ニ在リ、基部

太ク末端急ニ細ク稍尖レリ。其兩側ニ存スル小顎ハ普通

ノ場合ニ於ケルカ如ク二枝ヨリ成ル、内枝ハ小ク、外枝

ハ長キ圓錐狀ニシテ其端ニ三個ノ小突起アリ、一個ハ甚

寄生撓脚類れるなんすろばす(穴戶)

第拾卷

217 二一七

明治三十一年七月十五日

二個モ大サヲ異ニスルモ前者ニ比スレハ甚タ小ナリ。

第一雙顎脚他種ニ於ケルト大差ナシ

第二雙顎脚モ亦普通ノ形狀ヲナス。基節ト體壁トノ間ニ

盤狀ノ部ヲ判然認メ得ヘシ、又第三節即チ鈎狀部ノ末端

節ニ非常ニ細キ粒狀突起四五ノ不規則ナル列ヲナシ排置

ス。

第一雙撓脚モ亦普通ノモノト大差ナシ、稍平キ纖毛ヲ以

テ被レタル基部ノ端ニ内外ノ二枝附着ス。外枝端ニ五個

爪狀突起アリ甚タシク濶大セハ各爪縁ニ二三ノ錐齒狀突

起アルヲ見ルヘシ。

第二雙撓脚モ亦普通ノ形狀ヲ爲シ、第一雙撓脚ト大差ナ

シ、其外枝端ニ四個ノ小爪存ス。(第 頁へ續ク)

雜 錄

●札幌博物學會記事

同會第七十回月次會は六月十一日午後七時當區同窓會俱

樂部に開會宮部金吾氏は幌内及び幾春別炭坑中に採集せ

られたる坑内トマツの支柱を侵害腐蝕せしむる白色の黴菌に就て其標本を示し講演せられしに其害たるや實に坑中の一大憂害にして新材と雖も早きは使用後一ケ年にして殆んど全く菌絲の侵蝕する處となり其質をして羸弱ならしめ容易に折れ危険ならしむるあり坑内殊に空氣の流通惡き濕分多き箇所にては其害甚たしく白色菌絲の木材より一二尺垂下するを見るべく就中廢坑に於ては其生長甚たしく殆んど坑道を塞くるに至る此菌絲に侵害せられたる材は褐色を呈し濕りたるものは易く爪を以て印すべく又乾けるものは縦横に收縮し且つ脆くして兩指間に揉み得べく所謂 *Thin Hot* をなすものにして未だ其芽胞を檢せされは其何種たるやを確信する能はずと雖も以上述ふる所の性質によれば頗る *Polyporus vaporarius* に類す云々と次に野澤俊次郎氏は先般公命を以て武藏艦に便乗し五月七日函館出帆千島を航行せられたる紀行を演せられしか時未だ寒冷群島皆白雪を以て被はれ占守に於ては氣温華氏廿八九度海水亦三十一二度加るに航行中は暴

明治三十一年八月十五日

ハサルニ至リタルヲ證スルモノナリ。又此ク兩性生殖ノ始リタル頃ニ至リ急ニ營養分ヲ増加セハ再ヒ無性生殖ヲ開始スルモノナルノ事實ハ、兩性生殖法ノ無性生殖ヲ營ミ能ハサルノ結果トシテ生シタルヲ證スルニ非スヤ。動物界ニ於テモ亦同様ナル事實アリ。多細胞動物ヨリ單細胞動物——或ハ單細胞動物ト相同ナルモノ即チ多細胞動物ノ生殖物——ニ移レハ植物體ニ於ケルト同様ナル法則ニ從フモノナルヲ見ル。極球ナルモノハ不完全ナル細胞ニシテ無性生殖法ノ最早續ケ行クヲ能ハス兩性生殖ヲナサントスルノ事情起リタル時生スルモノナリ。若シ此ノ説明ニシテ誤リナカリセハ染色質ノ數ヲ減スルハ變化ヲ生スルノ根元ニシテ變化ニ伴フモノニ非サルナリ。サレハ既ニ存在セル物質ノ一部ハ受動的不能ナルカ爲メニ非スシテ活動的ニ排出スルモノナリト假定スルノ必要アルヲ見ス。又雄性細胞ヨリ不用ナル染色質ノ排出セラ、トアラハ雌性細胞ニ於ケルト同様ナル排出作用ノ雄性細胞ヨリモ起ルモノナリト言フヲ得ヘシ、然レモ此ハ

眞正ナル事實ニ非ス。雄性細胞ニ於テハ染色質ノ生産上予ノ立論ヨリ豫記セルカ如キ頽廢ヲ來スモノナリ即チ細胞分裂中精蟲ト成ル可キ細胞ニハ其先代ナル細胞中ニ存セシ染色質ノ半數ヲ殘留シ、茲ニ予ノ受精作用ノ先驅者トシテ提起セル勢力ノ衰頽及ヒ缺乏ノ實地存スルヲ知ル。卵細胞ト極球ト相匹敵ス可キモノト思料センニハ其大サノ同様ナルヲ想像センヲ必要ナリ而シテ此ノ差ヲ生スルハ卵細胞内形體質ノ堆積セルニ據ルナリ (完)

●寄生橈脚類れるなんすろばす

(第二一八頁ノ續キ)

宍戸一郎

たいのれるなんすろばす

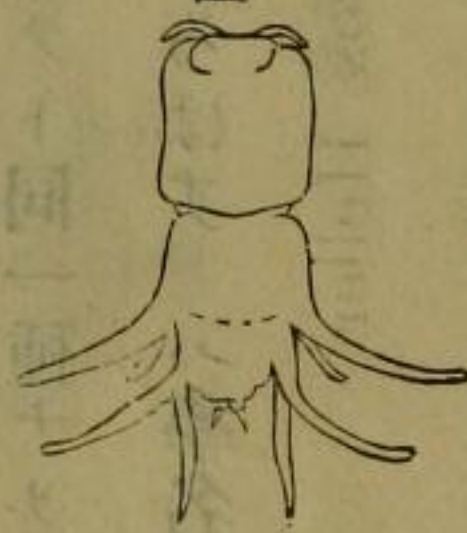
雄 (第丁、戊、己圖)

大ナルモノニテハ體長二 $\frac{1}{4}$ みめ。第四双橈脚末端マテ三みめアリ。

頭胸部ハ雌ニ於ケルカ如ク、生活セルモノニテハ、稍長

方形ニシテ兩側殆ト眞直或ハ稍凹ニシテ後縁孤狀、中央部特ニ凸圓ナリ。前縁ハ殆ト眞直ニテ右左隅角圓シ。(丁圖)。生キタル者ヲ直チニ酒精中ニ投セハ雌ニ於ケルカ如ク。頭胸ノ左右兩側部ハ開展シ甚タシク其形狀ヲ變ス。生キタルモノニ在リテハ頭胸部ノ最モ幅廣キ部ハ遊離胸部ノ幅ト大差ナシト雖モ、保存シ頭甲ノ開展シタルモノニアリテハ其幅殆ト胸幅ノ $\frac{1}{5}$ アリ、即チ殆ト遊離胸部ノ全長(腹部ヲ除ク)ト相均シ(己圖)。觸角ヲ有スル部ハ雌ニ於ケルト異ナルコトナク、頭胸ノ前端兩角間ニアリテ、判然タル淺溝ヲ以テ區隔セラレ、後縁中央部ノミ其境界明瞭ナラストス。觸角ハ生時ニアリテハ横ニ展ヒ頭胸部ノ側縁ニ達ス。遊離胸部ハ背楯ヲ缺ク、故ニ腹部及ヒ尾部ハ背面ヨリ判然認メ得可シ。又胸部ト腹部トノ境界ハ明瞭ナラザルモ、第三双橈脚ノ基部後端ニ於テ體ヲ横斷セル淺溝アルヲ見ル、此レ其分界ナル可シ。此溝ノ前部即チ胸部ノ中央稍後端ニ近キ邊ニ亦一小横溝アリ。

胸部ハ大略方形ニシテ小シク横ニ長ク。其兩側後端ヨリ第三双橈脚出ツ。背面ハ弧狀ニシテ腹面稍扁平ナリ。腹部ハ淺溝ヲ以テ直ニ胸部ノ後端ニ接ス、然レドモ其幅少シク狹シ、夫ヨリ漸々其幅ヲ減シ、稍圓キ後端ヲ以テ終ル、其中央稍腹面ニ小キ方形ノ尾部附着ス。肢脚ハ總テ能ク發達シ、雌ノモノニ比セバ甚ダ大ナリ。側面ヨリ見ルニ吸管ノ尖端モ認ム可シ(第戊圖)。觸角、吸管其他口部ノ機官、第一双第二双橈脚等特ニ著シキ點ナレバ茲ニ節略ス。第三双橈脚ハ胸部ノ後端側面ヨリ出テ各細キ二枝ニ分ル。一枝ハ外方稍後方上方ニ向フ、
 丁圖
 雄
 新鮮ナルモノノ背面ヨリ見タル圖殆ト十倍
 一枝ハ後方下方方ニ向フ、背方ニ向フモノハ腹方ニ向フモノヨリ少シクキ長ガ如シ。第
 戊圖
 雄
 新鮮ナルモノノ側面殆ト十倍



雄
新鮮ナルモノノ側面
殆ト十倍

雄
新鮮ナルモノノ背面
ヨリ見タル圖殆ト十
倍

四双橈脚ハ胸部ノ

後腹縁部ノ側面ヨ

リ出デ細キ二枝ニ

分ル。一枝ハ後方

外方上方ニ走り、他枝ハ左右殆ド相並行シテ後方ニ向フ、

上下ノ兩枝殆ド其長サヲ均フス。

此種ハへれる氏ノ *Pagrus guttulatus* ニ於テ發見セラレ

タル *Lernanthropus atrox* 雌ニ類似ス。同氏ノ原記述ハ

今手元ニ非ザルヲ以テ茲ニ之ヲ拔萃スルヲ能ハザルモ、

はいでる氏ノ記載及ビ圖畫ニ據ルニ頭胸部背甲ノ形狀少

シク異ナレリ、Das Kopfbruststück ist nach vorne verbrei-

tert, mit abgerundete Vorderecken, welche durch die über-

das Fuhler-doppelsegment vorragenden Seitenlappen ge-

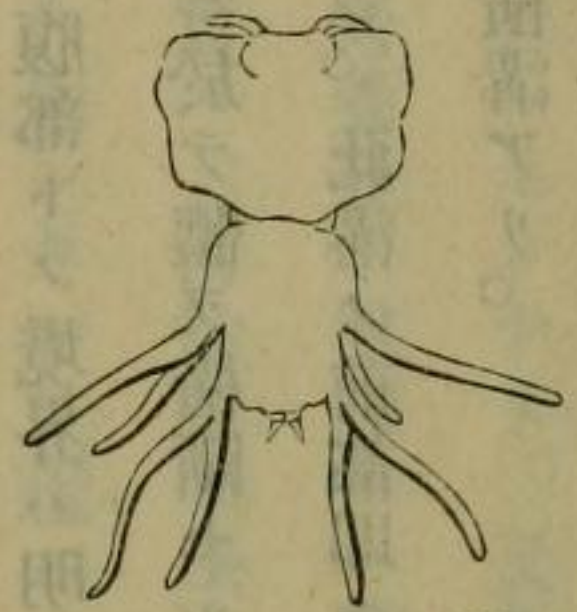
bildet werden. Nach rückwärts wird das Kopfbruststück

allmählig schmaler und schliesst durch eine Quersfurche über

den Rücken abgestumpft, welche Quersfurche in der mitte

eine Einbuchtung zeigt.

己圖



雄

保存シタルモノ
背面ヨリ見タル
所殆ト十倍

予ガ標本ノ雌ニ在リテハ第二一六頁ニ圖ヲ掲ケ置キタル

ガ如ク、頭胸部ノ後縁ハ圓クシテ背甲ノ開展セルモノニ

テハ其中央部山形ニ突出セリ。其他ノ形狀特ニ第三第四

橈脚尾部等ノ緊要ナル點ニ於テハ異ナル所アルヲ見ザレ

ハ新ぼーらんど産ノモノト同一種ナリ即チ予ノ

たいのれるなんすろばす ハ學名

Lernanthropus atrox, Heller

ナリト考フ。へれる氏ノ標本ハ長三みめトアレバ予ガ得

タルモノヨリ小ナリ、然レドモ猶小ナル雌ニシテ完全ナ

ル卵囊ヲ有スルモノ數多アリタレバ大サハ甚ダ緊要ナル

モノニ非ザル可シ。

此種ノ雄ニ就テハ未ダ書籍ニ記シタルモノアルヲ見ズ。

へれる氏モはいでる氏モ雌ヲ記述セラレタルノミ。茲ニ

予ノ記シタル雄ハ、雌ト同時ニ之ヲ得タルノミナラズ數

度雌ニ附着シ居レルモノヲ得タレバ、前號ニ記シタル雌

蟲ノ雄ナルヤ疑フベキナシ。

(18) *Micrurus forsovittata* n. sp. (第二十一圖)

體長僅カニ一五み、め幅〇、五み、めノ甚ダ美麗ノ一種ニシテ頭ハ體軀ト連續シテ前方ニ至ルモ狹マラス且前端ハ第二十一圖



殆ンド切斷狀ニ終リ尾部ハ稍細尖ス體軀全ク無色ナレモ片背面ニハ黒紫色ノ長方形斑紋一列アリテ背面ハ之ガ爲メ只其兩側ニ細ク無色ノ邊緣ヲ殘スノミ頭部前端ノ斑紋ハ殆ンド方形ヲナシ自餘ノモノハ皆其二倍餘アリテ何レモ殆ンド同大ナリ各斑紋ノ間ハ無色ノ細キ横線ヲ殘スヲ以テ一見無色ノ輪條ヲ有スルガ如シ眼ハ數個ノ小黑點ニシテ第一斑紋ノ左右ニノミ並列ス側溝ハ第二斑紋ノ中央ニ達ス

(未完)

●寄生橈脚類れるなんするばす

(第二五六頁ノ續キ)

宍戸一郎

くろだいのれるなんするばす

此種ハ本年一月相州三浦郡諸磯灣ニ於テ捕獲セリくろだいに於テ始テ一雌ヲ得タリシカ、其後前種ト共ニ數個ヲ發見セリ(未タまだひニ寄生スルモノアルヲ見ス)而シテ數多ノ場合ニ於テ前種ト相混シテ同一魚ノ鰓ニ附着シ居レリ。其數ハ甚タ少ク、且甚タ稀ニシテ、余ハ今日マテニ僅々數個ヲ得タルノミ。雄ハ未タ之ヲ得ルコト能ハサレハ如何ナル形狀ヲ爲スモノナルヤ不詳。

雌(第一、二、三、四圖)

體長。五みめ、頭端ヨリ第四雙橈脚後端マテ七みめ。頭部ノミ一、五みめアリ。

頭胸部ハ稍方形ニシテ後縁僅ニ凸圓、前縁ハ殆ト眞直ニテ、中央ニ小キ楕圓形ノ觸角ヲ附着セル部アリテ少シク前方ニ突出ス。側部ハ殆ト中央ニ於テ前後ノ二部ニ分

ル。前半ハ下方ニ垂レ下リ頭側ヲ被フ、其下端圓シ。後半ハ角ノ如ク横方稍後方ニ突出ス、其末端ハ稍細ク、鈍ク尖リテ爪ノ如ク後方ニ曲レリ。

觸角ヲ附着セル部ハ割合ニ小ク、頭胸部ノ前縁中央ニアリテ、横ニ長キ楕圓形ナリ、前縁凸圓ニテ稍前方ニ突出ス、後縁ハ少シク凹ナリ。淺溝ヲ以テ頭胸部ノ他部ト區隔セラル、モ、後縁中央部ハ溝甚タ淺クシテ判明ナラス。

第一雙觸角前外角ヨリ出ツ。

遊離胸部ハ長クシテ其中央部、左右縦走筋ノ間、ハ著シク弧狀ヲ爲ス。

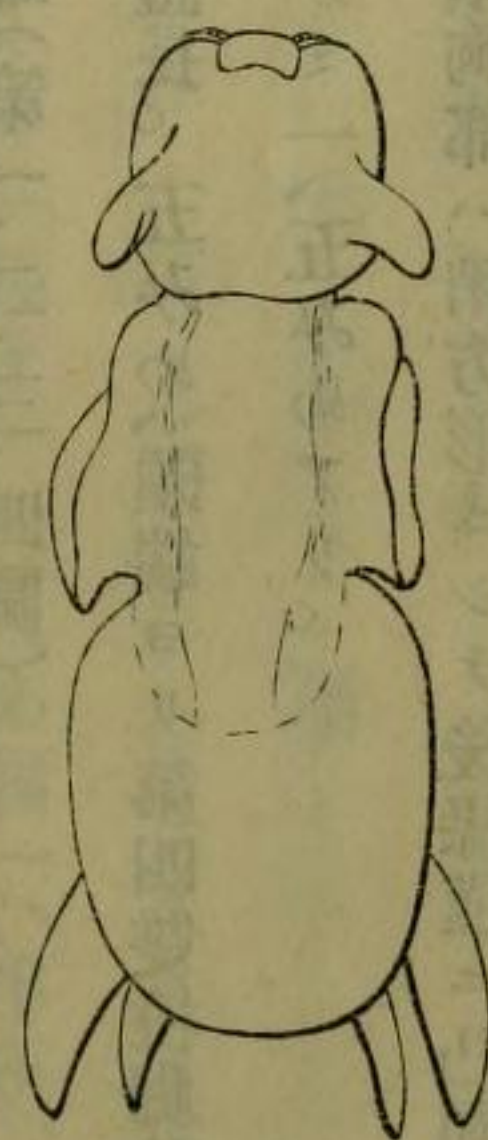
左右ノ側部ハ保存シタル標本ニ於テハ稍平シ、新鮮ナルモノニ於テモ多少扁平ナルカ如シト雖トモ中央部トノ差異保存品ニ於ケルカ如ク著シカラス、此

レ生活セル時ハ體內ニ液體充滿シ澎レ居ルニ由ルナリ。又遊離胸部ノ幅ハ新鮮ナルモノニ於テハ、其最モ廣キ所、

頭胸部ノ幅ト殆ト相等シク或ハ稍廣キカ如キコトアリ、又其側縁モ左右殆ト並行ナルモ、保存シタル標本ニテハ

其幅大ニ減シ特ニ兩側扁平部ノ幅減シ頭胸部ヨリ狭シ、

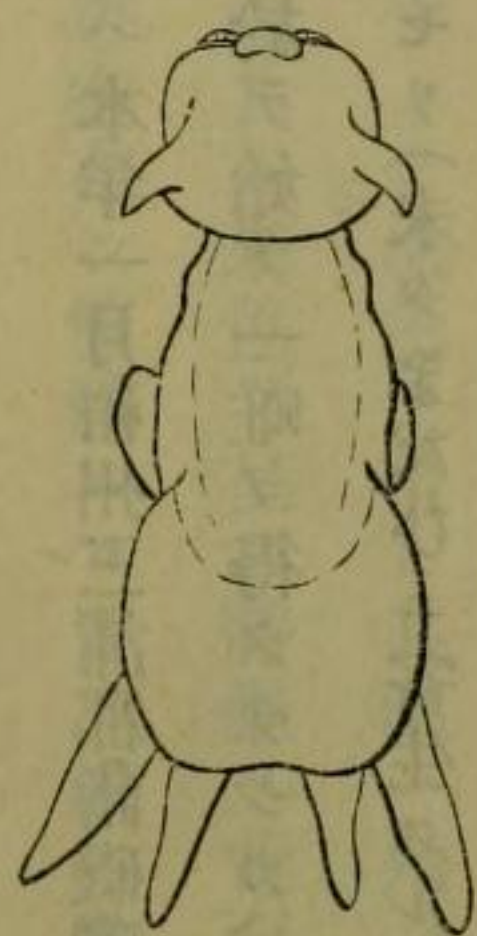
又前方特ニ甚シク收縮スルヲ以テ兩縁ハ前方ニ於テ收合スルノ傾向ヲ呈ス。第一圖及三圖ヲ比較ス可シ。



第一圖
新鮮ナルモノヨリ
背面



第二圖
同前
側面



第三圖
ほるまりん漬標本
ヨリ
背面



第四圖
同前
腹面

背楯ハ楕圓形ニテ前方ハ半月形ニ缺損シ、遊離胸ノ後端及側部ニ接ス。後縁ハ少シク平ク、特ニ保存シタル標本ニ於テ扁平ナリ、酒精漬標本ニ於テハ後端切斷セルカ如キ狀ヲ呈スルモノアリ、又其中央ニ淺キ灣曲ヲ呈ス（第三圖）。

第一雙觸角ハ六(?)節ヨリ成ル。基節ト第二節トノ分界線判明ナラス。最後ノ環節ハ最長環節ニシテ其遊離端ニ大小十(?)個ノ毛ヲ有ス。第一、第二、第三、第五ノ各節ハ其内縁ニ末端ニ近ク各一本ノ毛ヲ有ス、第二節ハ外縁ニモ亦一本ノ毛アルヲ見ル。基節ハ其幅甚タ廣ク、殆ト第一第二兩節ノ長サト等シ。

基節ノ外側ニ絲狀ノ小突起アリ、長カラス。第二雙觸角ハ爪ノ如キ普通ノ形狀ヲ爲シ、特ニ記ス可キ異點ヲ見ス。他種ニ比セハ體長ニ比シテ稍小ナルカ如シ。吸管ハ頭胸部ノ殆ト中央ニアリ。其中部左右ニ密接シテ小顎存ス、内枝ハ球狀ノ一節ヨリ成リ一毛ヲ有ス。外枝

ハ圓錐形ニシテ其末端ニ二毛生ス。第一雙、第二雙顎脚共ニ普通ノ形狀ヲ爲シ特ニ記ス可キ所ナシ。第一雙顎ノ末端ニハ馬蹄狀ニ配列セル小齒アリ。

第一、第二雙繞脚モ亦普通ノ形狀ヲ呈ス。第一雙繞脚ハ五個ノ太キ爪狀突起ヲ有スル扁平ナル外枝ト、圓錐狀ニシテ一個ノ突起ヲ有スル内枝トヨリ成ル。内枝ノ面ニハ其遊離端ニ近キ邊極テ微細ナル棘狀毛ヲ以テ被ル、ヲ見ル。内枝ノ内側ニ短キ毛アリ、其基部ニモ微毛群生ス。外枝外側ニ稍長キ毛アリ。第二雙繞脚ハ四個ノ爪狀突起ヲ有スル扁平ナル内枝ト、圓錐狀ノ外枝トヨリ成ル。外枝ノ端ニハ稍長キ尖リタル毛一本附着ス、其基部枝面ニ微毛簇生ス、内枝内側ニ長キ毛一本アリ。第三雙繞脚ハ遊離胸部ノ側部ニ沿テ起リ、背楯ノ最前端ノ直前ニ於テ腹面ニ突出シ弧狀ニ曲リテ前方ニ向フ。其質薄ク幅廣キ葉狀體ニシテ其兩側ハ腹側ニ屈曲シ、樋ノ如キ形狀ヲ成ス。(第四圖)

第四雙繞脚ハ基部稍細ク一本ナルモ、直ニ二枝ニ別レ、廣キ扁平ナル内外二枝ヲ形成ス、兩枝共其長サ殆ト相等シ、中央ヨリ少シク前部最モ幅廣ク、夫ヨリ漸次其幅ヲ減ジ、末端尖レリ、全長ノ殆ト一半(?)ハ背楯以外ニ出ヅ。

尾端ニ長キ披針狀ノ二突起有リ、背楯以下ニ突出スルコトナシ。

此種ハ先キ述ヘタルガ如ク、たいのれるなんすろばすと共ニ發見セラル、モノナルモ、頭胸部ノ形狀特ニ横ニ突出セル角狀突起及ヒ第三雙繞脚ノ形狀ニヨリテ直ニ前種ト區別セラル可シ。其學名ニ至リテハ、西書未タ類似ノ形體ヲ記シタルモノアルヲ知ラサレハ、此亦新種ト見做シ、

Lernanthropus chrysophrys

くろだいのれるなんすろばす

ト稱セント欲ス。

予ノ現今マテニ實驗セルれるなんすろばす類ハ以上掲ケ

來リタル種ヲ以テ終リトス。他ニ一個まるさばヨリ得タルモノアレトモ、甚タ奇形ニシテ不具ナルガ如ク、且ツ僅ニ一個ナレハ充分之ヲ調査スルコト能ハサレハ、當分茲ニ單ニ擱ク。(終リ)

●蛙卵ノ發生

(第二九九頁ノ續キ)

トーマス、ハント、モルガン著

宍戸 一郎 譯

ほむ、らあと氏ハさんじようをノ雄精發育ニ當リ、第四世代ノ細胞生スル旨ヲ述ブ、ふれんみんぐ氏ハ第三世代ノ終期ニ於テハ雄精ニ分化スルモノナリト記サレタリ。然レモほむ、らあと氏ニ據レハ、第三世代ノ終期ニ當リ大形ナル細胞現ハレ其内ニ染色體ノ十二群ヲ有セル大核アルヲ發見セリト云フ(第五圖B)、此ノ染色體ノ各群ハ四個ノ粒ヨリ成リ、全部ニテ四十八個ノ球狀粒存スルナリ。此ノ染色體粒ハへてろちびつく分裂すびんをとるヨリ生シタルモノニシテ、十二個ノ屈曲セル棒狀染色體